

コンセプチュアル思考

～抽象化・概念化・意味化によって

担当事業・製品・サービスに独自の世界観・軸を与える～

オンラインワークショップ

キャリア・ポートレート コンサルティング 代表
組織・人事コンサルタント

概念作家

村山 昇



目 次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 概要..... | 1 |
| はじめに..... | 1 |
| 1. 「コンセプチュアル思考」とはどんな思考か..... | 2 |
| (1) CONCEPT の意味..... | 2 |
| (2) 種類の異なる抽象..... | 2 |
| (3) コンセプチュアル思考とは..... | 3 |
| (4) 知／情／意..... | 4 |
| (5) 担当する事業／個人のキャリアのあるべき姿..... | 6 |
| (6) 「π の字」思考プロセス..... | 7 |
| (7) 4 つの思考スタンス..... | 7 |
| 2. 「抽象」のトレーニング..... | 7 |
| (1) 抽象とは..... | 7 |
| (2) ワークショップ／自己紹介シート..... | 8 |
| (3) 「抽象の質」が「行動／施策／経験の質」を決める..... | 9 |
| 3. 「客観的定義」と「主観的定義」..... | 11 |
| (1) 事業とは○○である..... | 11 |
| (2) 客観的定義とは..... | 11 |
| (3) ワークショップ／成長を定義する..... | 12 |
| (4) 「観」が醸成されていく仕組み..... | 12 |
| (5) 「ぶれない軸」を持つとは..... | 12 |
| 4. 「在り方／最上位の目的」に目を向ける..... | 13 |
| (1) 「目標と目的」「目的と手段」について改めて見つめてみる..... | 13 |
| (2) 目的目線が「在り方」にあるか、「処し方」にあるか..... | 13 |
| (3) ワークショップ／我が社の提供価値宣言..... | 13 |
| (4) 2011 年携帯電話機市場..... | 14 |
| (5) どこにまなざしを向けるか..... | 14 |
| おわりに..... | 15 |

概要

ロバート・カッツが「コンセプチュアル・スキル」としてその重要性を提唱し、ダニエル・ピンクが著書『ハイ・コンセプト』の中で次代の鍵能力として挙げた概念化の力。「VUCAの時代」となってますますその重要性が高まっている。このワークショップでは概念的に考える力がどのようなものを理解し、既存の事業・新規開発の事業を問わず、製品・サービスに新たな概念の光を当てる訓練をする。

■ポイント

- ・「知・情・意」の思考
- ・論理・分析に埋没しては「大きく強い、独自の答え」は出ない
- ・客観を超え、主観で跳ぶ
- ・3つの思考フロー：抽象化→概念化→具体化
- ・「π（パイ）の字思考プロセス」と観の醸成
- ・2011年、携帯電話機市場で起こったこと
- ・「処し方」と「在り方」
- ・本質的な意味や価値を引き抜き、具現化する力

はじめに

まず自己紹介をする。41歳まで会社員をし、その後企業内研修という道で独立し20年経つ。基本的には独立当初はキャリア開発系でさまざまな研修をし、10年ほど前からこのコンセプチュアル思考、概念化の思考というような思考スキルの分野も扱うようになった。

キャリアを教える人間が思考法という別のジャンルを教えることは連関性がないように感じられるが、根本は一緒である。キャリアを考えることは一職業人／一プロフェッショナルとしての自分の軸を決めていくことであり、職業人としてのコンセプト軸を持ってキャリアを推し進めていくことにつながる。自分が一職業人として世の中に提供できる価値は何なのかという本質的なことを抽象化して考える。

それは同時に自分の担当製品／サービス／事業にどのようなコンセプト軸を与えるか、製品／サービスを通してどのような価値を世の中に届けるかということだ。コンセプト軸を考える上でこの抽象化する／本質を捕まえるという思考は、個人のキャリアでも製品・サービスを推し進めていく上でも共通の思考力が必要になってくる。

本日は自著『コンセプチュアル思考』[2022.2]（ディスカバー・トゥエンティワン）から2時間に凝縮した入門編をお伝えする。さらに深堀をされたい人は参考にさせていただきたい。

コンセプチュアル思考はかなり根源的な思考の力である。一時期の流行としてではなく、今後皆さんの思考基盤／思考リテラシーの1つとして根付いていけば幸いである。

1. 「コンセプチュアル思考」とはどんな思考か

(1) CONCEPT の意味

①つかむ／内に取り込む

- ・語源 concieve con=強調の意 cieve=つかむ ⇒アイデアを抱く、着想する
- ・名詞形 concept つかんだ内容=概念
- ・形容詞形 conceptual 概念的な

- 1) 生きている上で、働く上で接している物事が何であることを認識し、つかむ作業
- 2) その本質をつかんだものを概念化／構造化／構想化する

②「桜」の認識の仕方

- 1) ものをどのように概念化していくか ⇔ どのように認識するか
- 2) 概念としてのつかみ方には種類の違いがある

例:「桜」の定義

a. 客観的あるいは知識／事実／科学的根拠に基づく認識

「バラ科サクラ属落葉広葉樹の一部の総称／日本の国花／古くは花といえば桜を指した」
辞書的な桜の定義。

b. 主観的解釈

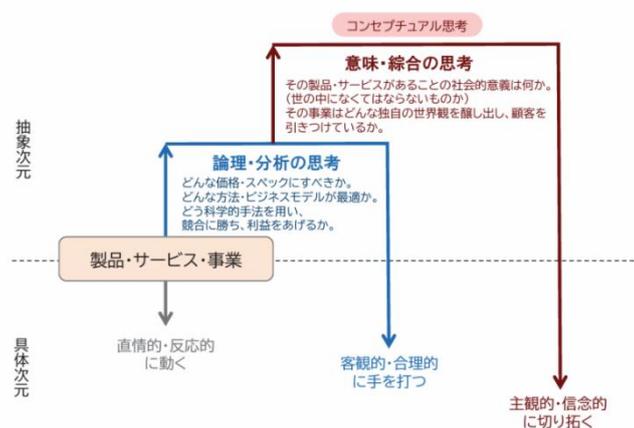
「春の日に儂くもたくましく花々を咲かせ、多くの人々の心をとらえる樹木の女王」
⇒同じ桜を認識するにしても種類の違いがある／どちらも概念のとらえ方としては正しい

(2) 種類の異なる抽象

①製品／サービス／事業

図 1

種類の異なる抽象



©村山昇

製品／サービス／事業を担当する上で、抽象次元で思考し、これに対して具体次元で何